



# 湖東支部会報

平成28年度 第1号 滋賀県レイカディア大学同窓会  
◆発行責任者 藤居 忠治 ◆編集責任者 澤 好成

## 支部長就任の挨拶

### 地域に密着した活動を！縦の繋がりを横の繋がりに結びつけて

滋賀県レイカディア大学 同窓会湖東支部 支部長 藤居 忠治  
(三十二期 園芸学科)



酷暑の候、会員の皆様方におかれましては、ご健勝でお過ごしのこととお慶び申し上げます。

さる四月二十五日の定期総会にて、囁かずも松本支部長の後を引き継ぎ支部長の大役を仰せつかり、はや三カ月が過ぎましたが会員皆様方や役員各位の深いご理解とご協力のお蔭で何とか業務を果たすことができ感謝している次第です。

元より浅学非才な私は支部長の器ではなく、同窓会に対する何の知識も経験もありませんでしたが、就任後、同窓会本部の役員会にも出席する機会を得、県内九支部の活動状況や問題点をお聞きし参考になることも多く今後の活動に生かしていきたいと思っております。

会員各位に於かれましては、レイカディア大学卒業後も、同期同学科の仲間（縦の繋がり）では、いろいろな活動を続けられていると思いますが地域同窓会（横の繋がり）での活動は多くありません。この縦の繋がりを横のつながりに結び付けば同窓会の魅力が増し、やりがいのある地域に密着した同窓会活動につながると思っております。

本年度はこのような同窓会活動を目指して皆さんと共に一歩踏み出す覚悟です。会員各位に於かれましては、いろいろなご事情もあるかと思いますが本年度も、各支部で計画されている各種行事にこそつて、ご参加をいたいただき忌憚のない提案をお願いします。最後に会員各位のご健勝と益々のご活躍を祈念しまして就任の挨拶といたします。

## 平成二十八年湖東支部 定期総会開催

平成二十八年年度の定期総会が、四月二十五日（月）彦根市中老人福祉センターで開催されました。

前年度の事業報告、決算報告、新年度の事業計画、収支予算また支部規約の改正についての議案が提案され、全て原案どおり、可決

承認されました。

最後に役員改選が提案され、新役員が次のとおり承認されました。

- 顧問 松本壽一(彦根分会)
- 支部長 藤居忠治(愛知分会)
- 副支部長 佐々木豊治(研修担当)(彦根分会)

## 今後の主な日程予定

新入会員歓迎会	9月23日(金)	一休庵
G・G大会	10月4日(火)	荒神山G・G場
四支部G・G大会	10月19日(水)	日野川多目的広場G・G場
研修旅行	11月4日(金)	福井県若狭方面
本部第9回地域活動事例発表会	11月14日(月)	近江八幡市ひまわり館

- 副支部長 福島将夫(総務担当)(愛知分会)
  - 支部長 澤 好成(広報担当)(犬上分会)
  - 理事 小中長昭(会計担当)(愛知分会)
  - 理事 児玉正孝(庶務担当)(彦根分会)
  - 理事 宮川文雄(彦根副分会長)
  - 理事 西永良博(彦根副分会長)
  - 理事 須田誠一(愛知副分会長)
  - 理事 圓城 忠(犬上副分会長)
  - 理事・監事 守野吉一(H.P担当)(彦根分会)
  - 監事 永井 明(彦根分会)
- なお、総会終了後、彦根市役所企画振興部情報政策課主任の古川達也氏が、『マイナンバーを知ろう』の演題で出前講座を開いてくださいました。
- マイナンバー制度の三つの目的
- ①国民の利便性向上
  - ②行政の効率化
  - ③公平、公正な社会の実現
- について改めて教えて頂きました。

### 「六十歳青春・七十歳青春」

三十六期生 園芸学科

戸嶋 滋 一



ドイツ生まれ  
のアメリカの詩  
人、サミュエ  
ル・ウルマンの  
詩に「青春」と  
いうのがありま

す。要旨は「青春とは人生の一時期を言うのではなく、心の持ち方にある。年を重ねただけで人は老いない、理想を失ったときに初めて老いる。歳月は皮膚のしわを増すが、情熱を失ったときに精神はしぼむ」というものです。要するに二十歳の人でも、夢を持たず下を向いた生活をしている人に青春はない、六十歳、七十歳の人でも、目的や希望をもって前向きな人生を送っている人は、まさに青春の真つた中にあるということだと思います。

今年のレイカディア大学米原校の大学祭での卒業生の活動発表や作品展示のテーマは「明るく・仲良く・元氣よく」でした。常に前向きにポジティブに、友達や地域の皆様とも仲良く親交を深めながら、いつまでも元氣で、地域にすこしでもお役に立てればとの思いが込められています。私たち一人一人がレイカディア大学の卒業生としての誇りを持ち、この

## 会員の広場

テーマに沿って、それぞれの方がそれぞれの目的や夢をもって、明るく・仲良く・元氣よく、六十歳、七十歳の青春を謳歌して頂きたいものと願っています。

### 「七十歳を過ぎてからの友は何よりの宝物」

三十六期生 北近江文化学科

百田 浩

滋賀レイカディア大学を卒業して一年になります。大学の二年間は私の人生において、また七十歳を過ぎてからの友が出来たことが何よりの宝物です。四国高知で生まれ、東京から知らない土地、滋賀の彦根に良き素晴らしい友を得たことは、未熟な私自身がびっくりしております。良き友を得たことは他人に甘えていた様に思われず。

これからの人生は、また甘えの人生になるかと思いますが、人の中で自分に何が出来るか問いかけながら、残りの人生を自分らしく歩んでいこうと思っています。

今、昔のような彦根の銀座商店街を取り戻すことに頑張っております。彦根出身でない私を相手にしていただくことのむずかしさが分かっています。しかし、私が街に解け込まなくては、との感が分かってき

ました。最近、銀座に古くから営業されている「おでん屋和音」に行きだしました。そこでは銀座の古い店をされて居た方に、お逢いすることができました。まずは、人の輪を作らなければ。

以前の会社の上司から、営業はまず、自分を売り、自分を知って頂き、それが出来れば自然と人間関係が出来、商売につながる、と言われました。最近ある自動車の営業マンにその話をしたら、百田さん、今の営業はそんなゆくりした営業は時代遅れと言われました。しかし私の営業に対する考えは間違っていない、と思います。彦根復興の件は難しく、いま、挫折寸前ですが、人と話すことが人を動かすことと思ひ、私の知らない人脈を広げようと努力いたしている途中です。

### ホームページ利用のご案内

会員の皆さまへの情報発信に、今日ではホームページの利用があります。今号では作品展のご報告とかを盛り込めませんでした。そこでホームページのご利用をお願いする次第です。インターネットでレイカディア大学を検索して頂き、米原校、同窓会湖東支部を追って頂くと、報告記事、案内記事等にたどりつけます。

### 平成二十八年年度 本部総会開催される

平成二十八年年度同窓会本部総会が五月二十六日(木)、県立長寿社会福祉センター(草津市)で開催されました。

平成二十七年年度の事業報告、収支決算報告、平成二十八年年度の事業計画、収支予算並びに会則の一部改正が議題として提案され、全て原案通り可決、承認されました。

長寿者慶祝では、白寿慶祝者が一名、米寿慶祝者が二十九名(内十名が出席)と発表されました。湖東支部での慶祝者は二名(彦根分会で、米寿を迎えられました。おめでとうございます。ご芳名は次の通りです。

矢田しず江様 十八期スポレク  
北川 博様 二十八期スポレク

閉会の後、滋賀県人権センター地域支援課の松浦広明氏がSNS(LineやTwitterなど)の普及と留意点について記念講演されました。その中で、メール送信で宛先を間違えたり、送信内容を間違えたりすることで、大切な情報が流出してしまうことがあります。

「送信」ボタンを押す前のチェックやうっかり押ししてしまわないなどの注意が必要ですが、とのお話がありました。みなさん、如何でしょうか。

怖いですね!



# 「コケ(苔)は脇役だけど美しい」

三十六期生 園芸学科

鳥越 正夫



レイ大生の時に正月用の松竹梅の製作実習を行ったことがある。その時、材料表の中の一つ

としてコケがあった。コケ？と云えば君が代の歌詞で「苔のむすまで」や、ブロッケン堀や木の幹とかの少しじめじめした場所に生えているくらいの認識でしかなかった。講師より、盆栽にコケは欠かせない重要な「脇役」、自分で探して持参するようにといわれ、余り意識せずに家の近辺にあったコケをかき集めて持ち込んだ記憶がある。

最近、某大学で「コケ観察講座」を知り、好奇心から受講してみた。なんでもコケは地球上の歴史の中で、初めて海から陸に上がった植物で、地面から水を吸い上げる根がなく、血管のような「維管束」もなく、花も咲かせず繁殖するという特殊な生態系の持ち主だそうである。講座ではいろいろなコケにまつわる「うちちく」も学んだ。  
又、カリキュラムの中で代表的なコケ庭園としても知られる、京都の「常寂光寺」と「銀閣寺」でルーペを覗きながらの観察会があった。

ルーペを持った手が頼つべたに触れるくらいまで目に近づけ、そのままでの姿勢でピン트가合うまでコケに近づけていく。拡大された葉や茎・胞子体の繊細さはなんと美しいことか。その姿には感動を覚える。  
いろいろとコケを勉強してみると、それとなく人生感とも重なり、魅力を感じて「コケは脇役だけど美しい」と思いを馳せるようになった。



常寂光寺庭園の引き立て役「エダツヤゴケ」の群落

# 「レイ大卒業一年を振り返って」

三十六期生 北近江文化学科

天満 郁夫



平成二十七年九月にレイカディア大学を卒業して早いもので一年が経とうとしていきます。卒業と同時に湖東支部とサポート隊

に入会し、サポート隊の諸行事に参加させて頂きました。

去る五月二十七日には「甲良の偉人とせせらぎ遊園を訪ねて」でのウォーキングと特養ホーム「多賀清流の里」におけるボランティア活動に参加しました。六月十六日には「愛知川河畔の愛林活動」に、サポート隊交流行事部会の一員として参加しました。また、七月二十日、二十二日の大学祭において、OBとして三十六期北近江文化学科の課題学習の発表の展示を行いました。

私たち三十六期北近江文化学科は、卒業と同時に有志の仲間十三名で近江の文化・歴史を中心に勉強を継続しています。毎月、県内外の歴史遺産のフィールドワークと座学講座および課題学習の研究・調査等、研鑽を重ねています。その成果が今回の大学祭の発表に結び付いたものであり、感慨深いものでした。これからも、同好の仲間と有意義な活動をしていきたいと思っています。

# 「挑戦」

三十六期生 健康づくり学科

太田 多美恵

三年前にレイカディア大学に入學し私の一期一会は始まり、昨年九月に十五名揃って卒業しました。大勢の先生方から、たくさんの方から学ばせて頂いたにもかかわらず、正

直、私の頭の中には知識としてあまり残っていないように思います。でも、日々の生活の中で「きいたことがある」「この場合は、こうした方がよい」など頭を過ぎることが多々あります。私を二年間、鼓舞激励卒業まで導いてくれたのは、十五名の仲間との絆に他ありません。

卒業後は、在学中から活動しておられた仲間の一人を中心に、スコップ三味線サークル「アドベンチャーズ」を七名で立ち上げました。スコップ三味線って？ 聞きなれない言葉かもしれませんが、一度は耳にされた方もおられると思います。普通の三味線をスコップに持ち替え、歌に合わせて演奏します。楽譜が無いだけに、皆で試行錯誤しながら月二回練習に励んでいます。デイサービスセンターや、地域のサロンへ訪問させて頂いていますが、珍しさも手伝ってか、皆さんには好評で喜ばれています。八月末にはデイサービスセンターへ、九月には敬老会へ訪問予定です。大学で学んだ地域活動に少しは役立っているかなあ、と思いつつ一同頑張っています。二年間培われた絆があるからこそ、今の私たちがいると確信しています。  
「いかに長く生きたか」ではなく、「いかに良く生きたか」が問題である。そう思える人生でありたいと挑戦し続けます。

# 「仲間の似顔絵を毎日眺め」 三十六期生 健康づくり学科 川村 典子



レイカディア大学を卒業してから早や一年になろうとしています。先週は文化祭を見させて頂きに文産会館を久しぶりに訪

れ、懐かしい思いでいっぱいになりました。昨年の文化祭は八月でしたが、思いがけなく主人の葬儀と重なり参加させて頂けませんでしたので、今年は展示物や体験コーナーなどを嬉しく拝見させて頂きました。後輩の方々の意欲や熱意がムンムンと感じられ、レイカディア大学の素晴らしさに改めて感動致しました。

思えばレイ大での二年間は、あっという間に過ぎ去ってしまいました。何よりも十四名の新しい人たちとの出会いが私には新鮮に思えました。いろいろな分野で活躍され、人生を六十歳以上まで元気に頑張っていた方々には、お一人、お一人になんとも言えない個性があり魅力が感じられました。みんな真面目で積極的な方ばかりでした。昨年の文化祭で作られた健康づくり学科三十六期生の「人生いきいき」の表紙に描かれた全員の似顔絵（写真）を、あとで頂くことが出来、廊下の壁に貼って毎日眺め、時に「みんな元気？」とか声をかけ



たりして励みにしています。

レイ大での授業は多方面にわたって今まで全く知らなかったことをたくさん学ばせて頂きました。講師の先生方のお話を、ただ座って聞かせて頂くというのは、本当に有り難く、雑事を忘れそれは至福の時でした。余りにも心地よく、時には睡魔に襲われながらも未知の世界に心を躍らせることが出来ました。頂いた膨大な資料は、まだうず高く机の上を陣取っていますが、初盆と一周忌の法事も無事にすみましたので、ぼつぼつ整理をしなければと思っているところです。

県短に勤めていました主人は、レイカディア大学創立の時から七十五歳の定年まで大変お世話になりました。私は卒業証書を見せてあげることが出来なかったことが残念でなりませんでしたが、病院で毎日帰りに「（運転の）安全と（毎食の）栄養にきをつけるように」と言ってくれたことを忘れずに、これからも頑張っていきたいと思えます。

## 「卒業後の活動」

三十六期生 園芸学科

小山 江津子

卒業後の活動予定の内の一つで、課題学習でも取り組んだ「レイカエコくらぶ」で生ごみ減らしのPRをしています。生ごみをEM活用で肥料資源化した野菜や花木を育てます。会員登録数が地域市民も含めて三十五名にもなりました。

年に3回講習会を開き、EMを使ったボカシ作りを実践しています。この7月の講習会で8回目となりました。今回は少量の作り方を学んでもらいました。各自が作って沢山使ってもらいたいと思いましたが、早速一週間目に「沢山作りました。上手く仕上がりました。」とのラ

インを頂きました。

新しい会員さんですが、いつも「生ごみはゴミに出したくないから」と言っておられて直ぐに賛同して頂きました。8回まで続ける事が出来たのも、同期生の「エコ5」のメンバーの協力が頂けたからだと思っています。

特に事務局長には会員への連絡や講習会の資料作り、又市役所への会計報告等、複雑な事務処理を全てお任せして申し訳なく思っています。

講習会の他にも市役所からの依頼で事前協議も含めて年に6〜7回イベントの参加があります。メンバーの取り纏めだけでなく、「生ごみダイエットを考える会」の他団体との交流参加もして頂けて大変助かっています。今後も引き継ぎのメンバーが出来るまではご苦労をお掛けします。

彦根市のごみ排出量ワースト1の汚名が返上される事を願っています。



びわ湖の日には、清掃活動に参加

## 特別寄稿 「パイプ役」

二十五期生

スポーツレクリエーション学科 圓戸 敬子

湖東支部同窓会には新役員さんのもとで、二十八年度スタートしてもう八月です。常任委員は年会費集金から始まる。支部は動き始める。名簿作り、そして作品展と進められていく。

会員の皆さんには「ご無沙汰です」

「お元気でしょうか」と御声がけしながら用件を……。十一期生から三十六期生という幅広い会員の集まりです。

未熟者の私ですが、先輩・後輩とお出合い出来る楽しい時間となっております。年間通すと数少ない出合いを大切に、このお手伝い「パイプ役」を心しているものです。

## 物故者

謹んでお悔やみ申しあげます。

西村 博氏

第十六期 文芸学科

平成二十八年七月十三日ご逝去

片山 柳治郎氏

第十五期 園芸学科

平成二十八年八月十一日ご逝去

## 編集後記

日々、熱中症騒ぎの夏でしたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。今号より広報担当となつた三名、数度の編集会議を重ね、ようやくここに仕上げることが出来ました。第三十六期の卒業生の半数の方からのご寄稿を目玉に編集させていただきました。卒業後のボランティア活動、又ご趣味の取り組み等をご紹介出来ました。次の発行への課題も見えてきたように思います。会員皆様のご協力を頂きながら、取り組みたいと思っておりますので今後ともよろしく願っています。

澤 好成